



▲最後まで勝つことを諦めなかった選手たちには盛大な拍手が送られた。

応援団長の辻和彦君（3—6）は「惜しかった。段々と取れているので次の回でやってくれと思う」と期待を寄せた。伊吹潤也君（2—8）は「優勝してほしい。青森山田高校は強いので、点を取られたとしても諦めずに最後まで頑張つてほしい」と話した。野球部OBの梅森晋次さんは「ここで打ってほしいかった。できるだけ楽しんで頑張つてほしい。1回戦で勝って感動した。今回も逆転して頑張つ

7回

7回開始までに5点の差をつけられ、これ以上の失点を許してはいけない展開となった。追う本校は8・9回と連続で得点を奪うが、及ばず6—2で敗退した。ここでは7回から9回の生徒やOBのコメントを紹介する。

原晟也君（3—8）の母である文恵さんは初得点について「ナイスでした。素晴らしい。これから終盤になるが、野球は9回までであるので点を取って得点差をなくしていくてほしい」と感想を話された。岩本道徳君の母である日子さんは「やっと1点が返せてとてもうれしい」と笑顔を見せられた。野球部の藤野亮輔君（3—6）は「ようやく1点が入ったので流れをこっちに持ってきてほしい」と述べた。

8回

てほしい」とエールを送られた。中野偉さんは「アルプスだけでは収まらず、はみ出してしまいうらいの人が応援に来るのはすごい。これだけスタンドを埋められるのは、野球部だけの力ではなく保護者などの色々な方々の協力のおかげだと思う。在校生は一生生として野球も勉強もできてうらやましい」と述べられた。本校OBの山根丈亮さんは「地方大会から逆転勝利が多かったのも、今回も逆転してくれと信じている。私たちも応援に行くので勝てるまで勝つてほしい」と励まされた。

野球部員の村上瑛君（1—4）は「真っ赤なアルプススタンドは迫力があり、とても盛り上がった。終盤の追い上げに先輩方の意地を感じ、感動した。敗戦して悔しいが、この気持ちを来年へと繋げていきたい」と意気込んだ。新庄恭子さん（2—6）は「後半の巻き返しを見て、青森山田高校に劣っていたというこ

9回

根元龍馬君（1—8）は「先輩方の素晴らしいプレーを見せてもらっているのも、次にかしたい。ここからまだ逆転できるので甲子園優勝を目指して頑張つてほしい」とメッセージを送った。



▲ヒットに湧く本校側アルプススタンド



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号